

令和5年度実施状況調査報告書（スポーツ振興くじ助成）

■調査概要

助成団体	公益財団法人日本ソフトボール協会
事業細目名	国際競技大会開催
事業名	第1回 WBSC 女子 U15 ソフトボールワールドカップ
助成金額	84,021,000 円

■調査内容

令和5年度国際競技大会開催助成を受け、「第1回 WBSC 女子 U15 ソフトボールワールドカップ」を開催した公益財団法人日本ソフトボール協会の調査を実施しました。

本大会は、10月21日（土）から10月29日（日）の9日間に渡り、大田スタジアム、都立駒沢オリンピック公園総合運動場硬式野球場、世田谷区総合運動場野球場で開催され、日本を含む、世界5大陸の予選を勝ち抜いた12か国（今大会は、ウガンダが諸事情により不参加となり11か国）が参加する世界大会です。東京2020のレガシー継承とロサンゼルス2028のオリンピック競技復帰に向けて、日本が先頭に立ち継続的に活動すべきという日本ソフトボール協会の考えと、IOCの評価基準の一つである「若者の参加」という考えに賛同した東京都の後押しを受けて、招致、開催されました。

世界的にはソフトボールの専用球場がある中、日本は野球場での開催となるため、世界野球ソフトボール連盟との詳細な調整が必要になる等、開催までは様々な苦勞があったとのこと。その苦勞の中、PR活動が開催間際となったと伺いましたが、開会式では来場者全員に日本代表レプリカユニフォームの配布や、オリンピックが参加するなど大会を盛り上げる工夫がされていました。試合映像は、全試合公式HP内でライブ配信されており、一人でも多くの方の目に触れてほしいという主催者の気持ちを感じました。近隣の小中学校の校外学習として約1,000人の児童生徒を観戦に招待し、大会を大いに盛り上げたほか、都内のクラブチームと参加国チームの親善試合や国際交流プログラムを多数行い、勝ち負けだけでなく交流を設けることで、主に選手達と同世代へのソフトボール競技の普及に繋がる活動を行っていました。調査当日は、海外チームの1プレーに対する歓声の大きさ、U-15の選手達ならではの活気や、世界大会としての厳かな空気感の中、堂々とプレーする日本選手のレベルの高さを感じることができました。

ロサンゼルス2028での競技復帰が決定した直後の大会開催となったため、今大会の重要性が更に高まったと考えます。本大会の開催が今後の大会運営及びソフトボール競技の更なる普及・発展に寄与することと、本大会に出場した各国選手の今後の活躍を願っています。

（令和5年10月26日往査）

(写真) 第1回 WBSC 女子 U15 ソフトボールワールドカップの様子

